



平成24年3月14日(木)
朝刊より転載

子育ての悩み体験文集作り配布

西NPOの虐待防止へ



子育てに悩んだ体験を持つ母親たちの文集を作成する「日本タッチ・コミュニケーション協会」の宇治木理事長(左)ら

NPO法人「日本タッチ・コミュニケーション協会」(西区)は、児童虐待防止のため、母親たちが子育てで悩んだ体験を書いた文集を作成している。悩みを文章にしてもらい、読んだ人には「悩んでいるのは自分だけじゃない」と思ってもらうことで、虐待を防止しようという試みだ。

タッチ・コミュニケーションはベビーマッサーなどを活用した親と子の心のふれあい術。03年に設立された同NPOは、看護師や保育士らがメンバー。子育て教室などでタッチ・コミュニケーションを普及している。今回、同NPOは県共同募金会の「社会課題解決プロジェクト」に選ばれ、タッチ・コミュニケーションを普及するためのDVDや絵本、マッサージュオイルなどのセットを5月から1000人に無料配布する。その際、実際に子育てに悩んでいる人がタッチ・コミュニケーションを実践してどう変わったかを知ってもらうため、文集



庄原のさくら見ごろ
もうすぐ春

を作成して一緒に配布することにした。2歳と0歳の子どもを持つ母親は、社会から疎外感を感じて子育てに悩み、「(子どもに)手を出しそうになる気持ちを必死で押さえて耳を塞ぎ、部屋に子どもを置いたまま別の部屋に閉じこもって

いました」と応募した文章に書いた。タッチ・コミュニケーションの講座に参加し、子どもの肌に触れてマッサージュをするうちに「ああ、こんな表情をするんだ」と気づき、余裕が持てるようになったという。同NPOの宇治木敏子理事長は「虐待を防ぐには、母親だからこんなことを言っちゃいけない、子どもに当たってはいけない、という『昔ながらの母親像』から、お母さんを解放することが必要。文集をそのきっかけにした」と話す。

無料配布のための使途選択募金の受け付けは今月末まで。同NPO(070・5526・3364)。文集の配布希望や、文章の応募に関する問い合わせは電子メール(npofatc@msn.com)で。
【樋口岳大】